

[各出局教育最前線]

2つの「地域」に向き合って

—人文学部・人文社会科学研究科の40年の歩み—

麻野 雅子（三重大学人文学部）

人文学部・人文社会科学研究科は、1983年4月、学際的視野の下で専門教育を行う学部として、文化学科と社会科学科の2学科で発足した。創設以来、文化学科は、世界の様々な「地域」について、多面的・総合的に学べるカリキュラムを提供してきた。具体的には、日本、アジア・オセアニア、ヨーロッパ・地中海、アメリカといった諸「地域」を、言語、文学、歴史、哲学・思想、社会、民族、地理、環境といった多様な視点から、学ぶことを目指すもので、国際化時代を見据えたカリキュラムとして構想されたものである。一方、社会科学科は、2008年4月に法律経済学科に名称を変更したが、一貫して、法学、政治学、経済学、経営学という4つの学問領域の専門授業を提供することで、学際的・横断的かつ専門的な学びを実現することを目指してきた。複雑化する社会や「地域」を理解し、「地域」課題を解決するためには、社会科学を幅広くかつ深く学ぶことが不可欠だという認識のもと、法学部や経済学部ではない、独自のカリキュラムを提供してきた。

このように、人文学部は、2つの学科のカリキュラムを通して、国際的な意味での「地域」と生活の場である「地域」という2つの「地域」に向き合ってきた。人文学部にとって2つの学科が不可欠であるように、2つの「地域」を理解し2つの「地域」に貢献することは、そのアプローチは違うものの、両学科の共通の目標であり、人文学部の創設目的そのものである。

学部と同時に発足した人文社会科学研究科でも、2つの「地域」への貢献を見据えてきたことは同じである。大学院では、人文社会科学の諸分野の高度な専門知識に基づく、学際的・総合的な学びを通じて、国際社会で活躍できる人、「地域」課題を解決できる人の育成を目指してきた。また、2001年度には、「地域」社会との研究交流推進を目的として、「三重の文化と社会」という講義科目を新設した。この講義では、実際に大学院生が、三重県の「地域」に出向き、自治体の職員の方々や「地域」住民の方々に支えられながら、フィールドワークを伴う「地域」研究を行い、「地域」で開く現地報告会でその成果を披露してきた。

この「三重の文化と社会」の実践を踏まえ、学部でも、入学当初から学生に、「地域」とのつながりを意識させ、「地域」課題を解決できる人になろうとする意欲を醸成することを目指して、2017年度に「地域から考える文化と社会」という講義科目を新設した。これは、実際に「地域」で活躍しておられる社会人の方々や「地域」をフィールドに研究している教員の話の聞き、「地域」の抱える社会的諸課題や「地域」固有の文化について知るとともに、専門科目を学ぶうえでの問題意識を持つために開講されるリレー講義形式の授業である。また、各学科では、1年次後期から開講される、演習や専門PBLセミナーを通じて、課題解決能力の育成も図っている。

人文学部では、2024年度から新カリキュラムを導入する予定である。文化学科では、従来の4地域に分かれた学びから、学問分野による3コースを軸とする学びに変わるが、「地域」別の多面的な学びは残しつつ専門分野をより深く学べるカリキュラムであり、グローバル化する社会に対応するものである。今後は学部共通の学びを拡充しつつ、従来通り文化学科と法律経済学科の新カリキュラムを両輪として、2つの「地域」に真摯に向き合う教育カリキュラムを提供していく。